

盗撮ハンマー教員、正義の鉄槌。「俺に任せろ・学校を守りたい」

「ねえ、あの段ボール箱、なんかおかしくない？前、あんなのあったっけ？」

体育のプールの授業前、K 市立 K 中学の 2 年 3 組と 4 組の女子生徒たちが、女子更衣室で着替えていた。

「確かに、あんなの前はなかったね」

「ちょっと、一応確認しとこ」

女子生徒 2 人が棚の腰の高さにある段ボール箱に近付いていく。

他の女子生徒たちは、もう着替え始めていた。次のプール授業までの休み時間は、10 分しかない。

女子更衣室でスクール水着に着替えて、運動場のわきにあるプールに行かなければいけない。

ゆっくりしている時間はなかったけれど、女子生徒 2 人は不審な段ボール箱をしっかりと確認しようと近付く。

「ねえー、なんか、ここ穴開いてない？」

「うそー。ほんとだ」

段ボール箱にわずかな穴が開いていた。

少し大きめの傷といえなくもないけど、不審な穴であることは間違いない。

「一応中開けて、確認してみよ」

「そうだね。時間ないから急いでね」

女子生徒が段ボール箱を開けようとする。